1 あいさつ

委員長よりあいさつ

2 議題

（1）健幸づくり条例（案）について

岩倉市健幸づくり条例については、3月議会の議案として提出しているため、本日はパブリックコメント以降に変更した箇所についての説明となる。

○修正案について事務局より説明

（前文）

新旧対照表1行目「本市」については、5行目「私たちのまち岩倉」にあわせ、「岩倉市」に修正した。

2行目「まちづくりを推し進めて」については、岩倉市の条例での使用例がないため、「まちづくりを進めて」に修正した。

4行目「健幸づくり」については、第2条で定義されるまでは「」で囲っていたが、条例上のルールによると、強調したい場合は第1条までではなく最後まで「」で囲うことになる。健幸づくりのことを定めた条例で「健幸づくり」という言葉は当然使用するものであるため、「」で囲う必要があるのかとの条例担当課からの意見をもとに「」を全て外した。

5行目「わたしたち」については、漢字があるものは特別な理由がない限り漢字を使用するという条例上のルールに基づき、「わたし」を漢字に修正した。

「都市近郊」については、「健康で明るい緑の文化都市」と言っているのに「都市近郊」はおかしいのではとの意見をもとに「大都市近郊」に修正した。

「利便性が高い都市空間と」については、「利便性」の前に何の利便性かを示す修飾語が必要ということと、「都市空間」は必要ないのではという意見をもとに「交通の利便性が高く、また」に修正した。

6行目「豊かな自然」については、「岩倉市健幸都市宣言」の3項目めで、「五条川をはじめ身近な自然を楽しむ生活」としていることから、それに合わせ、「身近な自然」に修正した。

6～8行目については、「まちづくりが進められており」「まちづくりを推進する原動力」と似た表現が重複しているということと、「様々な分野で」は必要ないのではという意見をもとに、「市民主体の活動や協働による」を「まちづくり」の修飾語として「さらに、コンパクトなまちならではの顔が見える地域交流や社会参加による人と人とのつながりやきずなが、市民主体の活動や協働によるまちづくりを推進する原動力となっています。」に修正した。なお、「絆」については、常用漢字ではないため、ひらがな表記にし、第16条(2)についても同様に修正した。

11行目については、この条例を制定する理由を明記するため、「健康寿命を延ばし生活の質を高めることが求められています」を追記した。

12～13行目については、「活動」という言葉が連続しているため分かりやすい表現として、「文化やスポーツをはじめ生きがいがいづくりにつながる地域活動を通し、人と人、人と地域とのつながりを大切に」に修正した。なお、「重視」については、「大切」の方が適切ではという意見をもと

に、修正した。

「健康で幸せに暮らす」は「健康で幸せに暮らしていく」に修正して、健康で幸せである期間が長く続くことを表し、健康で幸せに暮らしていくための取組が健幸づくりであることを明記するため「健幸づくり」を追加した。

最後の２段落「そのためには、～」「このような認識のもと、～」については、条例を制定する理由として内容をまとめ、修正後の欄の最後の段落「そこで、市民一人ひとり～」に修正した。

(条文)

第２条(１)の１行目「いきいきと」については、漢字があるものは特別な理由がない限り漢字を使用するという条例上のルールに基づき、漢字に修正した。

第１２条「^く口腔」について、ふりがなをつけるのは、見出しと条文中の最初の単語のみという条例上のルールに基づき、(１)以降は削除した。

第１２条(１)「維持、向上等」は、条例上の用語のルールに基づき、「維持及び向上」に修正した。

第１７条の見出しについては、「岩倉市」を追加して正式名称とし、附則の文末については、条例上の用語のルールに基づき、「する」に修正した。

【委員長】

お手元の資料にある健幸づくり条例が案として３月議会に出されているということで、本日は中身がわかりにくいなど説明を求めたり、どうしてもこれを言うておきたいということを発言したりするような会になるかと思う。前文については分かりやすくなったと思う。特に３段落目で「健康寿命を伸ばし生活の質を高めることが求められています」と何が求められているかを示した上で次の段落で「健康で幸せに暮らしていくための取組である健幸づくりを進めていく必要があります」としたことで、本条例の位置づけが分かりやすくなったと思う。

【委員】

前文の３段落目の「近年、超高齢化の進行や疾病構造の変化など、社会環境が大きく変わり」について、超高齢化の進行や疾病構造の変化などが社会環境を修飾しているならば、「変化など、」の「、」はなくてもよいのではないか。また、同段落の３行目の「価値観の多様化により健康に対する意識も変化している」を「価値観の多様化によって健康に対する意識も変化している」の方がしっくりくる。

第４条第２項の３行目「市民が継続的に健幸づくりを行えるよう、社会全体で支援していく環境の整備に取り組むよう」と「よう」が二つ続いている。第５条等他の条では「よう」という言葉は一つしかなく続くことはないため、例えば「社会全体で支援していく環境の整備への取組に努めるものとしします」とか「環境を整備するものとしします」としたらどうか。変更するまでではないかも知れないが少し気づいたことを申し上げた。

ところで、第４条第２項の「環境の整備に取り組むよう努めるものとしします」と第９条第１項の「環境の整備に努めるものとしします」とではニュアンスが何か違うのか。

【事務局】

「取り組むものとします」とすると、義務と捉えられてしまうので、第4条第2項はあえて「取り組むよう努めるものとします」としている。

【委員】

第9条で、第1項の「児童等が健幸づくりを行いやすい環境の整備に努めるものとします」について、前回の委員会の際に、環境整備だけではなく活動を含めてはどうかと提案したと思うが、修正されていないので、環境の整備だけで活動のことについては踏み込まないということか。

【委員長】

環境の整備が、単に物理的な環境、例えば、ものを作ったり、建物の改修のことだけだと、物足りないのではないかということだと思うが、活動に取り組みやすい新たな環境整備というところまで含めれば、活動というものが環境の整備に含まれるかもしれない。

【事務局】

前回委員会の議事録7ページに「健幸づくりに取り組みやすい環境整備の他に、学校らしさを表現するため、健康教育の推進のことや、環境だけでなく活動の場面における整備のことを加えてはどうか。」と意見をいただいている。健康教育の推進ということになると、学校教育の中のプログラムにまで関わることになるため、環境整備という言葉で、広くソフト面・ハード面と大きく捉え、包括した形でこのような表現にした。

【委員長】

検討した上でこういう表現になったということか。

【事務局】

はい。活動の意味も含め「環境の整備」としている。

【委員】

「環境の整備」には活動の意味も含まれているということなら、逐条解説に明記した方がよい。

【委員長】

逐条解説は改めて修正版を送るが、それを確認いただくことでよろしいか。

【委員】

それでよい。

(2) (仮称) 健幸づくりシンポジウムについて

事務局より [資料 2] を用いて説明した。

【委員】

シンポジウムは観客がずっと座って聞いているが、せっかくの健幸づくりシンポジウムなので、何か体を動かすようなことはプログラムに含まれているか。

【委員】

簡単な運動みたいなものか。

【委員】

簡単な運動なのかは分からないが、せっかくの健幸づくりシンポジウムですずっと座っているだけではどうかと思って。

【委員】

条例のシンポジウムという固い話になりそうなので、5分または10分休憩時間を取りながら体をほぐすとよいかも。実はシンポジウムでパネリストの経験があるが、その際、緊張をしてしまったので、話し手にとっても何か息抜きがあるとよいと思う。アイデアとしては非常に良いと思う。

【委員】

シンポジウムの時間は長いので、ずっと座っているより体を動かした方がよい。

【委員】

シンポジウムについて広報などで市民に周知するのか。

【事務局】

条例制定の周知とこれから皆で一緒に健幸づくりを進めていくということを広めるために、広報に掲載するとともに、ポスター、チラシなどを用意し、施設に配布したり、区の掲示板に掲示したり、各委員が所属している団体に周知をしていただくなど、皆の目に留まるようにPRを考えている。

シンポジウムに簡単な運動などを取り入れることについては、是非プログラムに取り入れていきたいと考えている。

(3) 「健康いわくら21」(第2次) 推進状況について

事務局より [資料 3] を用いて説明した。

【委員長】

健幸伝導師は専門職が行うのか。

【事務局】

保健センターに勤務している。保健師、管理栄養士、作業療法士、歯科衛生士が依頼の内容に合った職種が、現地に出向いている。

【委員】

市民活動支援センターのボランティア活動団体の会議で健幸伝導師に来てもらったことがある。健幸伝導師ではないと思うが、岩倉市老人クラブで連合会でも年数回勉強会があり、高血圧予防の話が多く、私も3～4回聞いたことがあるが、非常に役に立っていると思う。

「健康いわくら21」（第2次）は、平成25年度から平成34年度の10年間の計画を立てて様々な取組を行っているが、中間評価では取組により多少改善されたのか。

【事務局】

「健康いわくら21」（第2次）の計画は10年計画だが、期間の途中での中間評価を平成30年度に行った。各分野の改善状況を確認して、事業や内容の見直しを行っている。

【委員長】

委員会に参加している団体・立場から、様々な取組について様々な考えがあると思うので、来年度に向けて改めてまた意見を聞く機会を設けられたらと思う。

2. 健康につながる生活習慣づくりでは6つの分野があり、そのひとつに歯の健康がある。

【委員】

節目歯科健康診査は、従来は保健センターで集団健診を行っていたが、平成30年4月からそれぞれの診療所で個別健診を行っている。30歳、40歳、50歳、60歳、65歳、70歳、76歳、その年齢で歯科健康診査が無料で受けることができる。岩倉は少し先進的で、65歳以上の高齢者には、口腔機能の検査を行っており、口腔機能が衰えている場合は指導をしているし、希望者には歯の表面をきれいにする歯間クリーニングを行っている。令和2年4月からは20歳が加わったので、ほとんどのライフステージの0歳から76歳までは各年代で歯科健診を受けることができる。

また、寝たきりの方も訪問で歯科健診を受けることができる制度が令和2年4月から始まる。岩倉のような小さい市が行っていることは珍しく先進的だと思う。

【委員】

数ヶ月に1回歯医者に通院しているのに、5年に1度案内が来て歯の健診を受けることが少しよくわからない。

【委員】

かかりつけの歯科医があり定期的に通院している場合はよいが、例えば、なかなか行けない、怖くて行けない、何をされるかわからないなどの理由で、全く歯科医院に通院していない場合、早く治療を始めないと歯が無くなってしまふことがあるので、健診を安心して受診できることにより

気づかせることができる。また、嚙む力が無くなると体も衰えるし、認知症のリスクも高くなるので、歯の健康について意識をしていない人に、なるべくこの機会を利用してほしい。

【委員】

「ぱ」「た」「か」を言わされるが、何の検査か。

【委員】

「ぱ」は口の筋肉の前の方の筋肉を使い、「た」は口の真ん中の筋肉を使い、「か」は奥の方の筋肉を使う。それが衰えているかどうかを検査している。

【委員】

口腔機能の検査と指導により誤嚥が防げる。

【委員】

歯医者に通院してもやってもらえない。健診だからやってもらえる。

【委員】

通院ではやらない。やはり健診を受けた方がよい。

【委員】

実際に歯のどこかが痛くないと歯医者に行かないし、歯医者に行くと痛いところとは別に他にも悪いところが見つかることがあるので、年齢の節目で健診を行うことはとてもよい制度である。

40歳の節目年齢で通知が届いたが、自分の定休日が木曜日で、通常だと歯医者は木曜日休みのため、有給を取らなければいけない。

【委員】

市内歯科医院の中で木曜日に診療できる歯科医院は3か所ある。

定期的に行くことをやめた方も、健診がきっかけにはなると思うので、是非とも利用していただければと思う。

【委員】

令和5年度からの「健康いわくら21」（第3次）は健幸づくり推進委員会が関わってくることになるのか。様々な方の意見を吸い上げることは必要だと思う。

【事務局】

今までは計画を事務局が作成してきたが、設置要綱に基づいて、様々な方の意見を伺いながら計画を作成していくことになる。

【委員】

そうした方がよいと思う。

【委員】

1. 疾病の発症予防と重症化の予防の（2）循環器疾患の⑦として尿中塩分濃度測定の実施が新たに追加されているが、特定健診で行っているか。または、第1水曜日と第3水曜日の健康チェックで行っているか。

【事務局】

尿中塩分濃度測定は、第1水曜日と第3水曜日の保健センターの健康チェックの日に行っている。

塩分を減らした方がよいと話をしても、「いやいや、そんなに」となかなか聞く耳を持ってもらえないことがあるので、客観的な指標を見せると、栄養士の話も聞き入れてもらいやすくなり、納得した上で食事の改善をしてもらおう一つの手段として、尿中塩分濃度測定を行っている。

希望される場合は、その場ではすぐにできないので、問い合わせをいただければと思う。

（4）令和2年度保健事業について

事務局より〔資料4-1～4-5〕を用いて説明した。

- ① 母子保健事業
- ② 成人大人の健康づくり事業
- ③ がん検診
- ④ 予防接種事業

【委員】

今年度は昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれが風しん追加的対策の個別通知の対象ということだが、昭和45年生まれは来年度が対象になるのか。

【事務局】

昭和45年生まれは来年度に個別通知を送る予定である。

【委員】

インフルエンザワクチンについて、保健センターで接種すると1,000円で、市内医療機関で接種すると1,200円と差があるが、この違いは何か。

【事務局】

個別接種については、医師会で単価を決めており、保健センターで接種する場合と委託料の算定方法が異なるので、自己負担金は若干違う額になる。

【委員】

豊田市で三つ子を持つ家庭の事件があった。乳幼児の健康支援について、地域交流会に参加する多胎児がいる家庭はよいが、地域交流会に参加しない多胎児がいる家庭への支援は保健事業にあがってはいないが、個別対応になるのか。

【事務局】

妊娠中から多胎児だとわかるので、様々な個別支援を行うことができる。追跡もできて、産まれてからも様々な個別支援を行っていくことになる。その中で、特に支援が必要だということになると、様々な条件があるが、福祉的なサービスが適用される場合があるので、福祉課や子育て支援課と連携して、必要なサービスを受けられるように支援を行っている。

【委員長】

ツインズ交流会を定期的に行っているし、それ以外に個別の対応もしている。

【事務局】

岩倉の場合は、多胎児がいる家庭は案外少ないので、ツインズ交流会はスタッフと一組の家族の参加ということがあるが、安心して遊ばせられる、少し精神的にもリラックスすることができる、好評をいただいているので、事業を継続している。

【委員】

条例で、行政や医療機関など様々な役割が明記されたが、それを今後どう展開していくのか、また要綱の作成について、どのように考えているか。このままだと具体的な活動には結びつきにくい。

【事務局】

要綱の作成は今のところ考えていないが、健幸づくり推進委員会があるので、それぞれの関係団体の代表がどのようなことで協働ができるか、意見の交換をしながら、協働できることは協働の取組をし、そのことを周知していく。

【委員】

いずれにしても新しい施策なので、これが実行できるように皆で一緒に取り組むことが必要だと思う。新しく条例を作ったので、今後シンポジウムなどで、市民に周知し理解してもらうことになる。

【事務局】

第5次総合計画の策定に取り掛かっているが、条例が制定されて、岩倉市として健幸づくりの推進の取組について、総合計画の中に健康課だけの健幸づくりに係る施策ではなく、市としての取組という位置付けで考えている。

【委員】

それを是非お願いしたい。

【委員】

健康支援について、最近、日本語の教育の手伝いをしていると、ブラジル人よりもベトナム人が増えてきている。また、ブラジル人の子ども達は随分大きくなっているが、ベトナム人の子どもの親は年齢層がとても若く、結婚して間もないか、これから結婚を希望する若者が非常に多い。あるいは、結婚したが、子どもをベトナムに置いたまま来ている場合もたくさんある。

この傾向が続けば、保健センターにベトナム人がたくさん来るのではないかという気がする。ブラジル人は市民窓口課の窓口ポルトガル語の通訳がいる。また、中国人は漢字を読めばだいたいの意味を理解することができる。ベトナム人は漢字も読めないし、言語が全く違うので、これから多国籍化していく中で、ベトナム人や他の言語への対応は、市ではどのように考えているか。

【事務局】

予防接種は何か国語か問診票を作成してわかるようにしている。母子健康手帳は日本語以外にも5～7か国語を対応できるものを用意し、案内している。

【委員】

どこまでをフォローし、どの年齢の子どもを連れてくるかによるが、小学校に入る前の子どもが増えていく感じはしている。

【事務局】

言葉が通じないと支援ができないことがあるので、翻訳してもらえるところがあればそこに依頼し、伝わるように体制をとっていきたいと考えている。

【委員長】

保健事業について、内容だけでなく、どう進めていけばいいのか、建設的な様々なご意見をいただいた。今後も継続して検討をしていきたいと思うので、引き続きお願いしたい。

3 その他

今後のスケジュールについて連絡

以上